

コロナ禍でも日本からリモートで海外調査開始！

静岡県内企業がベトナムの防災対策に貢献すべくビジネス展開を目指す

—株式会社小澤土木・株式会社橋本組—

国際協力機構(JICA)は、2021年12月に、株式会社小澤土木(静岡県浜松市、小澤智久代表取締役)・株式会社橋本組(静岡県焼津市、橋本真典代表取締役)共同企業体(以下、共同企業体)との間で、「ベトナム国サイレントパイラーを用いた圧入工法^(注)によるアースダム・堤防の防災技術に関する案件化調査」にかかる業務委託契約を締結しました。共同企業体は、現状のコロナ禍で現地渡航に支障がある中、オンライン会議などを駆使して遠隔による調査を開始しています。

今月11日には、ベトナムの行政機関である農業農村開発省(以下、MARD)の行政官などとオンラインで繋ぎ、日本及びベトナム双方の関係者が初めて一堂に会するキックオフ会議を開催しました。MARDは、貯水池・ダム湖などの漏水対策公共工事を所管する官庁の一つであり、共同企業体がベトナムでのビジネス展開を本格化させるには、MARDによる本調査への理解や協力が欠かせません。会議では、MARDの行政官から、共同企業体が有する優れた施工技術「サイレントパイラーを用いた圧入工法技術」に対して、高い関心が示されました。

共同企業体の各社は、SDGsの取り組みの一環として、ベトナムの防災対策及び経済発展への貢献を目指しています。ベトナムでは、約50年ほど前に建設された貯水池・ダム湖の多くに老朽化による漏水がみられ、最近では漏水を起因とした破損事故が多発しています。この事故により、周辺地域の住民の生活や農業などの経済に悪影響が及んでおり、その対策がベトナム政府の喫緊の課題となっています。他方、これらの貯水池・ダム湖は、既存工法では十分な止水性能を確保できないケースが多々見られ、防災対策を強化するための技術的な課題を抱えていました。この課題を解決するために、共同企業体の有する施工技術「サイレントパイラーを用いた圧入工法技術」を導入して貯水池・ダム湖の補修工事を実施することにより、高い止水性能が発揮され、また山岳部などの狭小地での施工が可能になり、老朽化した貯水池・ダム湖の機能維持や保全に繋がることが期待されます。

JICAと共同企業体は、今後約15か月間にわたり、ベトナムにおける貯水池・ダム湖の漏水対策工事の需要や施工技術の現地適合性に関する調査、及びビジネス展開計画の策定などの調査事業を進めて参ります。

(注) サイレントパイラーとは、(株)技研製作所が1975年に世界で初めて実用化した圧入工法の施工機械(油圧式杭圧入引抜機)。また、「サイレントパイラーを用いた圧入工法」とは、既製杭設置方法の一つであり、既に地中に押し込まれた杭を数本つかみ、その引抜抵抗力を反力として次の杭を油圧による静荷重で地中に押し込んでいく工法。



サイレントパイラーを用いた圧入工法による
鋼矢板圧入工事のイメージ



MARD とのキックオフ会議の様子

(写真提供: 共同企業体)

【関連リンク】

「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」概要 https://www.jica.go.jp/priv_partner/activities/index.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部企業連携課 担当：田村
TEL:052-533-1387 FAX:052-564-3751
E-mail : cbictps@jica.go.jp

日本の真ん中から世界へ
JICA 中部



<https://www.jica.go.jp/chubu/index.html>